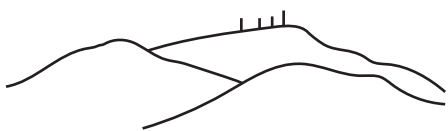


Youth Manna

2020/6/1 - 6/7



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/6/1(月)

Ⅰ 列王記 19 章

カルメル山で 450 人のバアルの預言者たちと対決し勝利したエリヤでしたが(18 章)、そのことで以前よりも強い憎しみをイゼベルから受けることになります。あれほどの勝利を経験したにも関わらず、イゼベルの脅しによってエリヤの心は折れてしまいました(2-3)。

もう死んでしまいたいと思うほどに弱ってしまったエリヤに、神様は御使いを遣わし、エリヤに触れて優しく励まします。「起きて食べなさい。旅の道のはまだ長いから」まだ成すべきことがあること、そして孤独を感じているエリヤに対し、神様が残している民がいることを知らせます(15-18)。

あなたが抱えている絶望は何だろう。神様があなたに答えてくださる！雑音を離れ、神様の静かな声に耳を向けよう！

2020/6/2(火)

Ⅰ 列王記 20:1-21

アハブは歴代の中で最も最悪の王と言われ、国に沢山の偶像を持ち込んだけれど、アハブがアラムの王ベン・ハダドに国を圧倒的な力で包囲されたピンチの時、その偶像の神々に頼ることはなく本当の神様にも頼らず、長老達に泣き言を言い人に頼りました。

神様はそんな最悪な王アハブに預言者を送り「わたしこそ主であることを知るため」と非力なイスラエル軍が大軍勢のアラム軍に大勝利をするように導かれました。

最悪な王にも悔い改めのチャンスを下さる神様の優しさ思い、今日も神様を第一として生きよう！！

2020/6/3(水)

Ⅰ 列王記 20:22-43

アハブは、主にあってアラムの王ベン・ハダドとの戦いに勝利した。そしてもう一度アラム軍が攻撃してくることを知らされる(22)。主は「私こそ主である」と知らしめるために、またしてもイスラエルに大勝利をもたらされた(28-30)。しかしアハブは、ベン・ハダドの命乞いに罪を問うことなく「彼は私の兄弟だ。」(32)とまで言い、アラムに有利な契約を結んだ(33-34)。

これは、主がもたらした勝利であることを無視した、勝手な判断である。28 節「すべてあなたの手に渡す。」とは、神のために聖別することを意味していた。その後、預言者に神の命令に背いたことを示されるが、アハブは自分の罪を認めなかった。

神様のことばに忠実であるとはどういうことか考えてみよう！神様が導いてくださったり、助けてくださったことを思い起こして、感謝しよう！

2020/6/4(木)

Ⅰ 列王記 21:1-16

アハブはナボデが所有するぶどう畑を気に入り、相当の代価を払うから譲って欲しいと頼んだが断られた。それはナボデが信仰の人であり、先祖からの譲りの地であり主に掛けて出来ないと断ったからだ。しかしそれを聞いた妻のイゼベルは嘘の情報で町の人にナボデを殺させた。

バアルを礼拝するイゼベルは、王様の権威が神様から授けられたものであることを理解していなかった(7 節)。神様を恐れない生き方は、自分の欲のために罪を犯す道に進ませてしまうね。

イゼベルは最悪なことをしてるし、自分はそんな酷いことはしないと思うかもしれないけど、自分の欲のために罪を犯してしまうことはないだろうか。すべてを与えてくださる神様の前に低くなる。そして神様を一番に愛そう！

ロゴマークの日

2020/6/5(金)

Ⅰ 列王記 21:17-29

アハブ・イゼベル夫妻はナボデのぶどう畑を奪うために殺人までしたのであった…

アハブは主の目に悪であることを行うことに身を任せました(20)。川の水が上から下に流れて行くように、僕たちは力を抜いて流れに身を任せると多くの場合、悪の方へと行ってしまいます。友達との会話で他の人の悪口を言う流れ…やるべきことから目を背けて怠けてしまう流れ…。罪を悔い改めて神様に立ち返りたいと願うなら、足に力を入れて何とか踏ん張って流れに逆らい神様の方へ向く必要があるのだと思います。

アハブと妻イゼベルとの関係は良いものではありませんでした(25)。僕たちにも大切な人間関係があると思います。でも、それが神様を悲しませる関係になってはいないかな？主の守りが、その人間関係の上にあるようにお祈りしよう。

2020/6/6(土)

Ⅰ 列王記 22:1-28

みんなは、注意されたり、正しいことを言われて嫌になったりしたことがあるかな？

今日の箇所のイスラエルの王様アハブも、自分がいい気持ちになる言葉だけを受け取っていた。周りの預言者も神様が言っていることではなくて、アハブに都合がいいように話しているね。そんな中、ヨシャファテとミカヤは神様のことばを脅されても語った。人の機嫌ではなく、神様の言っていることを大切にしたいんだ。真実を聞いたアハブは残念ながら怒るだけで神様のもとへは立ち返らなかった。

私たちにとって、耳が痛いことでも愛ゆえに教えられていることがあるね。聖書や親、先生、友だちを通して神様が自分に語っていることをしっかり受け止めていこう！

2020/6/7(日)

Ⅰ 列王記 22:29-53

ヨシャファテは父のアサ王の信仰にならって生きましたが、民の偶像崇拜を知っていながら、高き所を取り除きませんでした。そして神様のことばを聞かず、むしろ神様を憎んで逆らい続けるイスラエルの王と友好関係を保つことを大事にしました。アハズヤの支援に同意しなかった時もありましたが、結局アハズヤと同盟を結んだことで神様のさばきが下されました。

クリスチャンである私たちは何にでも「Yes」と答えることが愛なのではありません。神様のことばに従う時には「No」と答えることも必要です。

神様のことばに従う道を日々選択しましょう！